

学校教育目標	豊かなかわりの中で ともに輝く ひがまたっ子
	ひ 拓く子 自ら問題を発見し、主体的に考え、よりよく解決する子 (知)
	が 感謝する子 自他を大切にし、互いのよさを認め合う子 (徳)
	ま まっすぐ素直な子 心身ともにたくましく生きる子 (体)
	たっ 高め合う子 夢や目標をもち、他者と協働し、高め合う子 (公)
こ 行動する子 自分の思いをもち、自ら進んで行動する子 (開)	

学校概要	創立 35 周年	学校長 岡田 浩	副校長 大山 高幸	2 学期制	一般学級: 11	個別支援学級: 3
	児童生徒数: 317 人	主な関係校: 東俣野特別支援学校 大正中学校 大正小学校 小雀小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<主体的な学び> <人とのかかわり>	大正中学校 大正小学校 小雀小学校	学習に向かう姿勢を身につけ、粘り強く学ぶ子ども ○「主体的・対話的で深い学び」を目指した合同授業研究、協議会(年2回) ○小中合同職員研修会の開催(年一回)小中一貫教育推進会議(年4回)相互評価の会(年4回)専任、特別支援コーディネーターによる情報交換、協議会(年4回) ○児童生徒ブロック会議を開催し、児童会と生徒会の交流を行うとともに、合同の「スマイルプロジェクト」の推進、中学生による小学校訪問、児童生徒交流日での部活動体験

中期取組目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ すずんで学習に取り組み、自分の考えを表現し、高め合う子どもを育てます。 ○ 思いやりの心をもって、互いに支え合う子どもを育てます。 ○ 規則正しい生活を心がけ、心身ともに健やかな子どもを育てます。 ○ 地域の人や自然とのかかわりを大切にし、ともに生きる子どもを育てます。 ○ 人とのコミュニケーションを通して、多様性を尊重する子どもを育てます。
--------	--

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①全校の前に出て話すときには、自分で文章を考えて発表ができるように指導を行う。練習時間の確保をして自信をもって取り組めるように支援を行っていく。②学年研を活用し、学年の実態に合わせた教科の精選をし、目指す姿を明確にしていく。また、教材研究も分担し、計画的に行っていく。
豊かな心	①学年で共通して別葉を活用する機会を設け、意図的・計画的に道徳教育を実施していく。②あいさつ運動などをきっかけに日常的に交流できるようにする。視聴覚機器を活用した活動も工夫しながら取り入れていく。
健やかな体	①「運動の日常化」が図れるように、体育と連動させた意図的な支援をし、多様な運動遊びを行っていく。②家庭とさらに協力していくために、懇談会資料等で保護者への意識付けをし、児童一人ひとりが前向きに取り組むようにしていく。
児童指導	学校の取り組みを再度確認し、全職員が情報共有を図りながら指導するとともに、児童の共通理解だけでなく、指導の手立てについても職員全体で考えるようにする。
特別支援教育	年2回の個別の指導計画の見直しを図りながら、担任、児童支援専任、級外職員、管理職が連携して、その場に応じたできる限りの指導・支援をしていく。
公共心と社会参画	スタンダードを元に廊下での過ごし方(廊下は、公共の場であること)を年度当初に教職員で、共通理解し、マナーを守って過ごせるよう指導していく。
いじめへの対応	アンケートの結果を分析した上で児童の課題解決に向けての取り組みを、学活、道徳などを活用し実施していく。
人材育成・組織運営(働き方改革)	アンケートのデジタル化を継続していく。事前に保護者に伝え理解を深めていく。また、各分掌や部会に経験のある教職員を適切に配置し、全体提案の前に深く検討し、会議の時間短縮を図る。